

## 第2学年 生活科学学習指導案

単元名 おいしくなあれ、いっぱいなあれ、ぼくの、わたしの夏やさい (24時間 ; 1学期20時間, 2学期4時間)

### 1 子ども達は

○ 本学年の子ども達は、1年生の時に、自分の鉢でアサガオやチューリップを育てる共通体験をしている。その中で、変化や成長の様子に関心を持ち、自分の関わりによって育ちに差がでることにも気付いている。また、身の回りの花や木の実の変化に気付いたりそれらを用いて遊んだりする姿も見られるようになった。

○ 本学年の子ども達は、これらの学習を通して、自分が活動したことや願い、活動の中で気付いたことを、発言したり絵や文章をかいたりして、その子なりの表現をすることもできるようになってきた。

しかし、個々に表現することで満足し、自分の表現を高めるために友達のよさを取り入れていくには、まだ至っていない。

この学習では、まず、野菜を育てるに際し、食べてもらいたい人を意識させ、子ども達に「おいしくたくさん実って欲しい」という願いをもたせたい。その願いの達成に向けて、世話を続ける中で起こる様々な困ったこと(虫・鳥・病気・土の状態など)を何とか解決したいという思いをもたせ、対策を取っている友達に方法を聞いてみたい、もっと詳しい知識が欲しい、自分の野菜の状態を見て教えて欲しいと、主体的に人と関わる必要感を強くもたせるようにしたい。

野菜を育てる上で、困っていることを解決したいという明確な目的意識をもたせた上で交流活動を行い、友達の世話の仕方から自分に必要な知識や方法を取り入れ、より良い解決方法を見出していく過程の中で、友達と野菜の育ちについて共感的に対話したり、困っていることを解決するために人と関わったりする力を「交渉する力」を捉え、高めていきたい。

### 2 教材は

○ ほとんどの子は、野菜を育てた体験はなく、アサガオのような花を楽しむ植物と野菜は、別のものだと捉えている。そこで、その成長や変化が葉野菜より目で見て分かりやすい実野菜を育てさせる。初めの葉と形の違う葉が生えてくること、茎の丈が伸びること、葉や花の付き方に規則性があること、花の後に実や種ができること、根をしっかりと張っていることなどの共通点にも目を向けさせ、野菜もアサガオなどと同じ仲間であることに気付かせる。また、種類の異なるいくつかの野菜から選んで育てさせ、育ち方の似ているところ違うところを比較させていく。このような、視点をもって野菜の成長を見る体験は、今後の栽培活動や自分の考えを形成していく上でも役に立つと考える。

また、実野菜は、実りを食するという、そのものの持つ楽しみもあり、意欲を継続させやすいという利点もある。(感動性・継続性)

○ 鉢でも比較的育てやすい「ミニトマト」「シシトウ」「オクラ」「ピーマン」などから、「だれに・どんな理由で食べて欲しいか」を家族や友達と話し合い、どの野菜を育てるかを決めさせる。このように、自分と一緒に成長を楽しみにし、待ってくれる人が身近にいることに気付かせることで、愛着を持って世話を続ける意欲につなげていきたい。

野菜は、子ども達が一年生の時に育てたアサガオよりも、水や肥料の与え方・虫や鳥の被害の防ぎ方などに多くの配慮が必要である。本で調べたこと、友達や育て方に詳しい人との交流を通して、野菜の種類・成長に応じた世話の仕方を工夫する姿も生まれてくると考える。

また、実りを料理して家族に食べてもらう際、料理の仕方を家族に尋ねるなど、主体的にコミュニケーションをとることも期待できる。そして、家族に認められ、世話を続けることができた自分の成長として実感することも可能であると考えられる。(双方向性・必然性)

### 3 交流活動の工夫は

本単元では、次のような交渉する力を育んでいく。

#### こんな交渉する力を身に付ける

- 【であう段階】
- 「だれに・どんな理由で食べて欲しいか、そのためには、どのように育てたいか。」（「おいしい実がなる」「たくさん実がつく」「じょうぶで育てやすい」など）という願いを、家族や友達との交流を通して明確にもち、どの野菜を育てるかを自分で決めることができる。
- 【はたらきかける段階】
- アサガオの成長を想起し、実野菜の葉・茎・花などの成長の仕方と比べたり、友達の育てている野菜と似ているところ違うところを見つけたりしながら気付きを深め、愛情をもって世話を続けることができる。
  - 野菜を育てる過程で起こる、成長を阻害する要因を解決したいという強い思いをもち、友達との交流を通して、自分の世話の仕方を見直すことができる。
- 【たかめる段階】
- 願い達成に向けて、主体的に調べたり他者との交流を行ったりする中で、必要な知識や方法を自分の世話のしかたに取り入れていくことができる。
  - 実りを料理して家族に食べてもらう活動を通して、家族と積極的にコミュニケーションをとり、世話を続けることができた自分の成長として実感することができる。
  - 自分の育てた野菜の成長を、アサガオや友達の育てた野菜と比べ、共通点や差異点を見つけながら振り返るとともに、お互いの取り組みのよさを認め合うことができる。

このような交渉する力を育むために、次のような場を設定し、次のような学習材を使って、交流活動を工夫する。

場	学習材
<p>【単元全体を通して】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ お互いの活動や思い・気付きを表現し、交流する場</li> </ul> <p>【であう段階】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 相手意識と目的意識を明確にもち、自分が育てる野菜を自分で決める場</li> </ul> <p>【はたらきかける段階】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分が育てている野菜と友達の育てている野菜やアサガオの成長の仕方を比較し、気づきを深め広げる場</li> <li>○ 世話をするうえで困っていることを出し合い、友達の工夫を知って、自分の世話のしかたを見直すための場</li> </ul> <p>【たかめる段階】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ もっと詳しい知識を得るため、調べ活動やGTなどとの交流を行い、自分のやりかたに取り入れ、実践するための場</li> <li>○ 家族とのコミュニケーションを図り、自分の成長に気づく場</li> <li>○ 共通点や差異点を見つけながら学習を振り返り、お互いの取り組みのよさを認め合う場</li> </ul>	<p>【単元全体を通して】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ したこと・見たこと・気付いたことをカードに記録させ、このカードを振り返りの際に活用する。このカードには、「〇〇とくらべて」の視点を記入する欄を設ける。この欄に、友達の育て方を比べたり、アサガオや他の野菜と比べたりして気付いたことを記入させることで、気付きを深めるための交流が行いやすいようにする。</li> <li>○ 観察は、鉢を教室に持ってきて行う。このことで、成長に伴う重さの変化を体感し、抱える鉢を下から見ることで、葉の裏側などにも目を向けることもでき、気付きを深めることができる。また、目的的交流活動も行いやすい。</li> <li>○ 教師は見とり表を作成し、子どもの願いや活動の状況を把握するとともに、「だれとだれを・どのように」交流させるかなどを考え、意図的な働きかけや支援を行う。</li> </ul> <p>【であう段階】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 選択できる野菜や苗の写真や具体物。アサガオや春咲き球根の具体物。相手と目的、育てるにあたっての願い、身近な人に習ったことなどを記入するカード。（これは、学習の折々で確認させていく）</li> </ul> <p>【はたらきかける段階】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 成長の様子や気づきを整理した掲示物。子どもの学習カード</li> </ul> <p>【たかめる段階】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 取材カード。料理実践カード。これまでの掲示物と個々の学習カード（ポートフォリオ）。</li> </ul>

### 4 めざす子どもの姿は

- 誰にどんな理由で育てた野菜を食べて欲しいという願いをもち、野菜の小さな変化を見つけながら愛情を込めて世話を続けることができる。 【関心・意欲・態度】
- 野菜の成長を観察する中で気づき・驚きや喜び・悩みなどを表現し、積極的に資料を探したり、友達・家族・GTなどの身近な人に尋ねたりして、自分の世話のしかたを見直し、取り入れていくことができる。 【思考・表現】
- アサガオや友達の育てた野菜と比べ、共通点や差異点を見つけながら成長を観察し、種類や成長の過程に応じた世話のしかたがあることに気付くとともに、世話を続けることができた自分の成長や友達の取り組みのよさを認めることができる。 【気づき】

5 学習計画 (24 時間)

段階	学習活動と主な内容	※ 教師の支援	配時
<p>であう</p> <p>／</p> <p>はたらきかける</p>	<p>1 夏に実がなる野菜について知っていることを出し合い、自分の鉢で育てる野菜は何にするか、誰にどうして食べて欲しいのかを明確にもって決める。</p> <p>めあて① <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分のはちで、なつに みがなるやさいをそだてよう。</span></p> <p>(1) 夏に実る野菜は、どんなものがあるか、どんな野菜を育ててみたいか出し合う。</p> <p>○ 鉢でも育てやすいいくつかの種類のうちから、どれかひとつを選び、苗から育てることを知る。</p> <p>(2) 「だれに・どんな理由で食べて欲しいか」という相手意識と、そのためには、どのように育てたいか(「おいしい実がなる」「たくさん実がつく」「じょうぶで育てやすい」など)という願いを、家族や友達との交流を通して明確にもち、どの野菜を育てるかを決める。</p> <p>(3) 自分が選んだ苗への願いや、その苗を選んだ理由、家族などに聞いた育て方などを出し合いながら、自分の苗を見たり触ったりして、気づきを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「シントウは、お母さんが好きだから選んだ。家族で食べられるくらい、いっぱいになって欲しい。」</li> <li>・ 「ミニトマトの葉っぱはチクチクする。シントウの葉っぱはツルツルだね。」</li> </ul> <p>(4) 野菜の苗を植える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「なえの土を崩さないように、根っこを切らないようにして、土をお布団みたいに掛けよう。」</li> </ul> <p>2 育てている野菜の葉・茎・花などの成長のしかたとアサガオの成長を比べたり、友達の育てている野菜と似ているところや違うところを見つけたりしながら、交流しつつ気づきを深め、世話や観察を続ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「オクラの花の真ん中に棒みたいなのがあって、花の下が膨れているよ。」</li> </ul> <p>3 自分が世話をする上で困っていることを解決したいという思いをもち、友達にアドバイスをもらったり、自分の工夫を教えたりする交流活動を通して、自分の世話のしかたを見直す。</p> <p>めあて② <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">じぶんのねがいがかんうよう、せわのしかたをくふうしよう。</span></p> <p>(1) 世話をする上で、困っていることや知りたいことを、各自明確にし、うまくいっている友達や工夫している友達はいないか、アドバイスを受けたい相手を探す。</p> <p>(2) 今困っていることや知りたいことを発表し、アドバイスをし合い、自分の世話のしかたを見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「虫がいっぱい来て、葉っぱを食べるので、少し枯れてきています。いい方法を教えてください。」</li> <li>・ 「小さな虫だったら、牛乳を薄めて、スプレーするといいよ。」</li> <li>・ 「スプレー貸してあげようか。」</li> </ul> <p>(3) 友達のアドバイスをもとに、自分で方法を決め、必要なものを準備してやってみる。</p> <p>4 自分たちで考えた方法では解決できない悩みを解消するためには、もっと詳しい知識が必要であることに気づき、調べ活動やGTなどとの交流から、自分の活動をより高め実践する。</p> <p>(1) 友達のアドバイスでは解消できなかった悩みを出し合って、問題を整理し、もっと詳しい知識を</p>	<p>※ 春に咲く花、夏に咲く花があったように、野菜にも実る時期があることに、話し合いや写真などを通して気付かせる。</p> <p>※ アサガオやチューリップを育てた経験を振り返り、種や球根から芽が出て、種ができるまでの成長の過程を想起させるとともに、今回は丈夫に育つよう苗から自分の鉢で育てることを知らせる。</p> <p>※ 事前にお便りで、夏野菜を育てることを家庭にも知らせておく。友達と交流し、自分はどうか考えさせた後、家族にも相談して、決めさせる。身近な人に習ったことや決定理由も表現させる。</p> <p>※ 自分の苗への思いを高めるとともに、違う野菜とも見比べさせて、気づきを交流させる。</p> <p>※ 家庭で聞いてきたことや、育てた経験のある児童の話を参考にして植えさせる。</p>	<p>3</p> <p>①</p> <p>①</p> <p>6</p> <p>3</p> <p>①</p>
	<p>(1) 世話をする上で、困っていることや知りたいことを、各自明確にし、うまくいっている友達や工夫している友達はいないか、アドバイスを受けたい相手を探す。</p> <p>(2) 今困っていることや知りたいことを発表し、アドバイスをし合い、自分の世話のしかたを見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「虫がいっぱい来て、葉っぱを食べるので、少し枯れてきています。いい方法を教えてください。」</li> <li>・ 「小さな虫だったら、牛乳を薄めて、スプレーするといいよ。」</li> <li>・ 「スプレー貸してあげようか。」</li> </ul> <p>(3) 友達のアドバイスをもとに、自分で方法を決め、必要なものを準備してやってみる。</p> <p>4 自分たちで考えた方法では解決できない悩みを解消するためには、もっと詳しい知識が必要であることに気づき、調べ活動やGTなどとの交流から、自分の活動をより高め実践する。</p> <p>(1) 友達のアドバイスでは解消できなかった悩みを出し合って、問題を整理し、もっと詳しい知識を</p>	<p>※ 【関連】国語の「かんさつ名人になろう」で学習する、観察のしかたや表現方法を利用し、随時、したこと・見たこと・気付いたことをカードに記録していく。</p> <p>※ このカードには、「〇〇とくらべて」の視点を記入する欄を設け、友達の取り組みと比べたり、アサガオや他の野菜と比べたりして気付いたことを記入させることで、気づきを深めるための交流が行いやすいようにする。</p> <p>※ 観察のつど、鉢を持ち上げて成長に伴う重さの変化を体感させたり、葉の裏側など、視点を変えて観察するように声を掛け、その気づきを交流させる。</p> <p>※ 教師は見とり表を作成し、子どもの願い、野菜の生育状態、子どもの働きかけの状況を把握するとともに、「だれとだれを・どのように」交流させるかを考え、意図的な働きかけや支援を行う。</p> <p>※ 交流を通して分かった、野菜の成長の様子や気づきを種類別に整理した掲示物を作成し、比較し気づきを深めることができるようにする。</p>	<p>①</p> <p>①</p> <p>本時</p> <p>○組</p> <p>①</p> <p>4</p> <p>①</p>

<p>／ た か め る</p>	<p>得たいという願いを持ち、その方法を考える。</p> <p>(2) 問題点ごとにグループを組み、自分達で調べたことを交流する。GTに見てもらい、その方法でよいか、別の原因や解決方法はないかを尋ね、自分が決めた方法をやってみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ミニトマトは、青い実がたくさん付いていても、一つ一つの実に栄養が足りないと、大きく育たないまま落ちてしまうから、脇芽を摘んだり枝を切ったりしないといけないんだ。」 「水を遣りすぎて土がだめになってしまっていたんだ。根を切らないようにそっと、上半分を取り替えよう。」 「これでいいですか。おじさんみたいに、野菜のこともっとくわしくなりたいな。」</li> </ul> <p>(3) その時々の方策をとりながら、愛情を持って世話や観察を続け、気づきを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ミニトマトの実って、ブドウの一粒分みたいな付き方で、下の枝の、上の実から赤くなるよ。」</li> </ul> <p>5 「だれに・どんな理由で食べて欲しかったのか」個々のめあてを再度確認し、収穫した実をどのようにして食べてもらうか、よりおいしく食べてもらう方法を考える。</p> <p>(1) 初めのめあてを想起し、友達との交流を通して、相手においしく食べてもらいたいという願いを達成するための方法を調べる意欲をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「お父さんはトマトが好きだから、育てることにしました。そのまま食べて欲しいけど、単身赴任でなかなか帰って来ないので、腐らないか心配です。」 「弟はピーマンが嫌いなので、食べてもらえるように、おいしく食べられる料理の仕方が知りたいな。」</li> </ul> <p>(2) おうちの人に聞いて調べたことを発表したり、GTに尋ねたりして、自分の方法を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ミニトマトは、ミートソースにして凍らせれば、長持ちするって聞きました。GTの先生、本当ですか？」</li> </ul> <p>6 実りへ向けて、その時々の方策をとりながら世話や観察を続け、気づきを深める。</p>	<p>※ 友達との交流で解決できなかった悩みを整理して、グループ化することで、問題点を明確にし、子ども達が調べたり交流したりしやすいようにする。</p> <p>※ 種苗を購入した卸し業者の方をGTにお願いし、子ども達の気づかない土や実数の調整など、具体的に教えていただく。</p> <p>※ 悩みや解消されたか、その時々の方付きを交流によって広め、共有させる。</p> <p>※ 相手と目的、育てるにあたっての願い、身近な人に習ったことなどを記入するカードをもとに、個々のめあてを確認し、こんなふうに料理すれば、もっとおいしく食べてもらえるのではいかと考えさせる。</p> <p>※ 実際に料理するのは、育てている野菜の実りを収穫した後、家庭で行う。料理カードに、だれのために・どんな料理を・作り方・食べた人の感想・本人の感想などを記録し、2学期に発表しあうことを知らせる。また、事前に各家庭に、子ども達が料理をする際のアドバイスと付き添いをお願いしておく。</p> <p>※ 栄養士の先生か保護者の代表の方をGTとして考えている。</p> <p>※ 交流を通して、食べてもらいたい相手が喜び、自分で作れそうな方法を自己決定し、それを表現させる。</p> <p>※ 夏休み中も世話と観察を続けることを確認する。</p>	<p>① 本時 ○組</p> <p>②</p> <p>2 ①</p> <p>① ○組</p> <p>2</p>
	<p>7 自分の育てた野菜の成長を、アサガオや友達の育てた野菜と比べ、共通点や差異点を見つけるとともに、自他の取り組みを振り返り、実りまで育て上げたお互いのがんばりを認め合う。</p> <p>(1) 実を収穫してからの各自の取り組みを発表し、実りまで育て上げ、相手を喜ばせることができた自分や友達のがんばりを認め合う。</p> <p>(2) 鉢から掘り上げ、根の様子も観察する。自分の育てた野菜の成長を、アサガオや友達の育てた野菜と比べ、共通点や差異点を見つけながら振り返る。次も何か育ててみたいという意欲をもつ。</p>	<p>※ お互いの夏休み中の取り組みや家族の反応を発表し、共感的に聞き合わせる。</p> <p>※ 根がしっかりと土に張り、実りを支えていたことや、アサガオなども同じであったことに気付かせる。</p> <p>※ 学習の記録であるカードや掲示物をポートフォリオとして活用する。</p>	<p>4 ②</p> <p>②</p>

6 本時 「世話の仕方を交流し友達の工夫を知ることで、自分の世話の仕方を見直し、問題を解決する方法を決める場面」(11/24) (60分)

指導者 ○○ ○○ 場 所 2年○組教室

7 本時の目標

- 自分の世話の仕方を見直し、自分の野菜への愛情を深め、めあて達成に向けてよりよい取り組みをしようと意欲をもつことができる。
- 問題を解決したいという願いをもって、友達の工夫を聞いたりアドバイスをしたりする交流活動を通し、方法や手だてを自分で決めることができる。

8 本時展開

学習活動と内容 (○ 内容 ※ 具体的な支援・留意点)

めあて②

じぶんのねがいがかなうよう、せわのしかたをくふうしよう。

1 本時のめあてを確認する。

今日のめあて

ともだちのちえをかりて、なやみをかゝりけつしよう。

2 自分が今困っていることや知りたいことを発表する。

※ 前時に、自分が困っていることや知りたいこと、聞きたい相手などをカードに記入させておき、それをもとに発表させる。

必要に応じて、実際に野菜を見せながら説明させる。

- ・カラスが来て、せっかくなつた実を食べるので困っています。カラスが来なくなる方法を知りたいです。
- ・わたしのは、背ばかり伸びて、ちつとも実がならない。いっぱい実が付いて、早く食べられるようになって欲しいです。
- ・Aさんは、何でCDを付けているのですか。教えてください。

※ 子ども達の発言を、「土」「雨」「虫」「鳥」「実を大きく」「実をいっぱい」「丈夫に」などの観点で板書に整理する。

3 自分がしている工夫を見せたり話したりして、解決策をお互いにアドバイスし合う。

- ・ぼくは、枝をモールみたいなもので、支柱に結んでいたから、折れなかったよ。やってみたら？
- ・わたしは、水やりする時、葉っぱの裏にアブラムシがいたので、おじいちゃんに聞いた牛乳スプレーをしました。
- ・キラキラしたものを付けると、カラスがこないと聞いたので、CDをつけています。

※ 目的意識を明確に持たせて、聞いたり教えたりさせる。

※ 見とり表をもとに、だれとだれを交流させれば問題解決できるか考え、声掛けや支援を意図的に行う。

※ その場でできそうなことは、友達に習いながら取り組ませる。

4 友達や教師のアドバイスをもとに、これから自分が採ろうとする方法を決めて発表する。

決めた方法と必要なものを考えてカードに書き、次時に主体的に取り組めるようにする。

※ 「誰にこんな方法を教えてもらったので、明日、△△を持ってきて、早速やってみます。」のような、発表をさせる。

学習材：

- ・自分が困っていることや知りたいこと、聞きたい相手などを記入したカード。(決めた方法や必要な道具も記入させる)
- ・育てている鉢。
- ・成長の様子や気付きを整理した掲示物。

場：困っていることを出し合い、友達の工夫を知って、自分の世話のしかたを見直す場。

- ・活動：「土」「雨」「虫」「鳥」「実を大きく」「実をいっぱい」「丈夫に」など、子ども達が解決したい問題別に鉢を集めて、交流させる。必要に応じて、机を利用させ、活動や作業がしやすいようにする。

6 本時 「自分のめあてに向かうよりよい世話のしかたを、積極的にGTに尋ね、学んだことを実践する場面」(14/24) (60分)

指導者 ○○ ○○ 場所 第1ピロティ

7 本時の目標

- 友達との交流では解決できなかった問題を、解決したいという強い願いをもって積極的にGTに尋ね、自分のとる方法を選んで、実践することができる。

8 本時展開

学習活動と内容 (○ 内容 ※ 具体的な支援・留意点)

めあて②

じぶんのねがいがかんうよう、せわのしかたをくふうしよう。

- 1 本時のめあてを確認する。

今日のめあて

ゲストティーチャーの先生にならって、こまっていることをかいけつしよう

- 2 友達との交流で解決できなかったことについて、GTに尋ねたいことを明確にして質問し、解決策を習って実践する。

※ (場)まず、育てる上で困っていることや、今とっている方法を全体で確認する。次に、育てている野菜の種類別のグループに分かれ、個別にGTに質問したり見てもらったりする。習ったことをすぐに実践できるように、教師は必要なものを準備しておく。必要に応じて、畑の野菜や土と比較するよう声をかける。

- ・ 「水をいっぱいあげても、吸わないで、鉢の中に水が溜まってしまいます。水があるのに、葉や茎が弱ってきているので心配です。きっと、土が悪いのではないかと思うけど、どうしたらいいか分からないので、教えてください。」
- ・ 「先生に、上の方の土を取り替える方法を習ったから、すぐにやろう。」「これでいいですか。」
- ・ 「牛乳スプレーを葉にかけると虫が来なくなるとAさんに聞いたので、やっています。虫は減った気がするけど、少し黄色くなってきました。」

- 3 GTの先生に習って分かったことや、やってみたことを発表する。

※ 全体交流で、世話のしかたには、共通することや種類に応じて異なることがあることや、「おいしく」「いっぱい」などの願いに応じた世話のしかたがあることに気付かせる。

- ・ 「ミニトマトの青い実が、赤くなる前に落ちるのは、土の栄養が足りないからだということが分かりました。だから、肥料を○○先生にもらって、土に入れました。」「ぼくのはピーマンだけど、たくさん実がなるようにするには、栄養がいるって、△△先生に習ったよ。同じだね。」「私は、土が固いと、水を吸ったり息をしたりできなくなると教えてもらって、こんなふうに土を柔らかくしました。」「土って大事なんだね。」

- 4 分かったこと・やってみたこと、次にしたいことや必要な道具をカードに書き、本時のまとめとともに、これからも世話を続ける意欲をもつ。

学習材：

- ・ 自分が困っていることや知りたいことや、調べたことを記入したカード。
- ・ 育てている鉢。
- ・ 成長の様子や気付きを整理した掲示物。

場： より適切な世話の仕方を知りたいと、願いを持ってGTや友達と主体的に交流し、方法を取り入れ、実践するための場。

- ・ 形態：種類別の交流と実践の後、全体交流で気付きを深め広げる。
- ・ 活動：選択した方法をすぐに実践できるよう、ピロティに土なども用意する。必要に応じて、畑の野菜や土とも比べさせる。
- ・ GTのアドバイス

6 本時 「GTに尋ねたり友達と交流したりして収穫した実をおいしく食べるための方法を決め、野菜の世話を続けていく意欲をもつための場面」(18/24)

指導者 ○○ ○○ 場 所 2年○組教室

7 本時の目標

- 食べてもらいたい相手に、よりおいしく食べ、喜んでもらいたいという願いと、豊かな実りに向けてもっと世話をしようという意欲をもつことができる。
- おうちの人に聞いて調べたことを発表したり、GTに尋ねたりする交流活動を通し、自分の料理のしかたを決定することができる。

8 本時展開

学習活動と内容(○ 内容 ※ 具体的な支援・留意点)

めあて②

じぶんのねがいがかなうよう、せわのしかたをくふうしよう。

1 本時のめあてを確認する。

今日のめあて

ともだちやゲストティチャーの先生と話し合っ、おいしいたべかたをかんがえよう。

2 おいしく食べてもらうために自分なりに調べた方法や知りたいことを発表する。

※ 食べてもらいたい相手が、その野菜を好きか嫌いかに、調理の仕方が変わること気付かせる。また、収穫を直ぐに食べてもらうことができない場合も想定して考え、交流させる。

- ・ 「弟は、ピーマンが嫌いです。少しでも好きになって欲しいと思って、育てました。においを消して食べやすくするには、油を使ってよく焼くといいとお母さんに聞きました。肉詰めはどうかなと思うのですが、もっといい方法があれば教えてください。」
- ・ 「お父さんはトマトが大好きです。でも、仕事が忙しいので、実がなってもすぐには食べてもらえません。長持ちして、おいしく食べる方法を教えてください。」

「酢に漬けると長持ちするらしいよ。」「でも、おいしいのかな？」

3 友達との話し合いの中で、知りたい点を明確にしてGTの先生に尋ね、友達やGTに教えてもらったことから自分なりに方法を考え、料理の仕方を決め、発表する。

- ・ 「カレー粉を使って味付けをするのもいいけど、弟はまだ小さいから、Aさんが教えてくれたたくさんの卵で炒める方法で料理しようと思います。」

※ だれのために、どうしてその方法を選んだのか、アドバイスをしてくれたのはだれかを明らかにして発表させる。

4 料理実践カードにだれのために、どうしてその方法を選んだのかななどを記入し、これからの実りを期待して、今後も世話を続ける意欲をもたせる。

※ 調理は家族と一緒にやること。2学期になって、実践交流を行うことと、カードへの記録のとり方を知らせる。

学習材:

- ・ だれに・どうして食べてもらいたいのか、この学習のはじめに書いたカード。
- ・ 目的達成のために、おうちの人に聞いて調べた調理法などを記入したカード。
- ・ 育てている鉢。

場: もっと詳しい知識を得るため、調べ活動やGTなどとの交流を行い、自分のやりかたに取り入れるための場。これからも、野菜の世話を続けていく意欲をもたせるための場。

- ・ 形態: 身近な栄養士の先生か保護者の代表の方をGTとして迎え、個別交流後、全体で交流する。